

総合農業技術センター試験研究課題事後評価表（委員会用）

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きのオリジナル品種育成と栽培技術の確立

小課題名：夏秋どりイチゴの新品種育成と良品安定生産（H25～27）

担当者名：望月 寛徳、穴澤 拓未、藤木 俊也

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	4 / 5	甲斐サマーの弱点を克服するという点においては目標を達成したといえるが、安定生産性については更なる研究が必要である。
2 成果の有用性 （普及性、波及性）	4 / 5	既存品種の欠点を改良している点においては成果の有用性は認められる。今後の普及に努力をしていただきたい。
3 研究の発展性	4 / 5	国産品の需要が高まっている中で、県育成の既存品種をもとに、品質の改良や作型開発などの発展性が考えられる。
4 研究課題選定の妥当性	5 / 5	高冷地の多い山梨で、夏取りイチゴ「かいサマー」をベースにした県産品種の作出には、県内品種の奨励という意味で妥当性がある。
総合評価	4 / 5	県育成の既存品種を改良して、県民に利用される品種を作出することには意義があるが、普及性を考慮した取り組みを考えていただきたい。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

育成品種の生産性については、花房管理を徹底することにより安定した大果率を確保してゆく。今後は生産を希望する農家に対し、増殖用母株の提供を行い、普及部門と連携しながら栽培支援を行っていく。

総合農業技術センター試験研究課題事後評価表（委員会用）

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：普通作物管理技術の改良

小課題名：水稲における高温登熟障害軽減化技術の確立（H24～27）

担当者名：石井 利幸、上野 直也

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	5 / 5	体系的な研究手法により、高温登熟障害軽減という当初の目的に沿った成果を達成したと評価できる。
2 成果の有用性 （普及性、波及性）	5 / 5	地力窒素を計算しつつ、高温下での登熟障害を軽減できる資材を開発した点で、十分普及性が期待できる。
3 研究の発展性	4 / 5	高温登熟障害軽減に可能性がある資材が開発されたことで、これをベースにした温暖化対策技術の確立が期待できる。
4 研究課題選定の妥当性	5 / 5	水稲における高温登熟対策技術の確立は甲府盆地の夏の高温を考えれば最も必要とされる技術であると思われる。
総合評価	5 / 5	気候変動に負けない栽培を目指す目論見は非常に重要であり、高温登熟障害軽減のための可能性のある技術が示されたことは評価できる。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

「ヒノヒカリ」、「コシヒカリ」以外の本県水稲奨励品種についても、普及部門と連携して本肥料の適用性を確認し、さらなる利用拡大を目指す。今後も高温登熟性に優れる品種選定と併せ、気候変動に対応した温暖化対策を検討していく。

総合農業技術センター試験研究課題事後評価表（委員会用）

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：環境保全型農業の確立

小課題名：果菜・葉菜類の有機栽培におけるマメ科緑肥の利用技術（H25～27）

担当者名：赤池 一彦、國友 義博、長坂 克彦、萩原 裕一

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	4 / 5	有機栽培における地力の安定化という当初の目標は、本手法により達成できたと考える。
2 成果の有用性 （普及性、波及性）	5 / 5	農地への施肥量が低減される効果は色々な作物への普及・波及効果が極めて高い。有機栽培以外の場面での利用も考えられる。
3 研究の発展性	5 / 5	マメ科植物のすき込みにより、土壌/作物間における窒素制御に可能性が見いだされた、さらに詳細な研究を実施することにより、利用技術が確立されるものと考ええる。
4 研究課題選定の妥当性	5 / 5	環境保全農業を目指す生産現場からの技術開発の要望が高いことから、研究の妥当性はあると考える。
総合評価	5 / 5	有機栽培において安定した生産を期待するためには土壌管理技術の開発が必要であるが、本技術はそこに可能性を見出したものとして評価できる。さらに研究を進めて技術として確立してもらいたい。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

環境保全型農業に関する本テーマは、今後も長期的に研究を継続することで実効性を高めてゆく。有機に関しては野菜の耕種的管理手法の課題で継続する。緑肥に関しては新たに委託プロジェクト課題として、データの蓄積をさらに図っていく。

総合農業技術センター試験研究課題事後評価表（委員会用）

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きの栽培改良

小課題名：ヤマトイモの効率的種いも生産技術の確立（H25～27）

担当者名：萩原 裕一、窪田 哲

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	5 / 5	対象品種の産地化確立などのための、種いもの効率生産のための技術確立の研究目標は十分達成されている。
2 成果の有用性 （普及性、波及性）	5 / 5	種いも生産と本生産とを同時にする必要はあるが、生産性と省力性を高められる技術は普及性が高いと考える。
3 研究の発展性	4 / 5	本技術の確立により、省力化生産への作型開発が期待できる。
4 研究課題選定の妥当性	5 / 5	高齢化、省力化対策を目的とした課題選定には妥当性があり、さらにブランド化を推進できれば課題選定の意義は高い。
総合評価	5 / 5	種いも生産技術の確立は画期的なものであり県内での普及性のみならず県外への波及性も期待される。作型開発も含めた早急な技術の確立が望まれる。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

普及部門と連携を図り、栽培マニュアル等を整備して成果が迅速に現場へ普及するよう努める。また、各地域の作型に適合した増殖・栽培体系の確立に向けて現場支援を中心に取り組む中で、ヤマトイモ産地の拡大やブランド化の推進を図っていききたい。

総合農業技術センター試験研究課題事後評価表（委員会用）

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きの栽培改良

小課題名：早だしスイートコーンの低温障害を軽減するための栽培管理技術

(H25～27)

担当者名：赤池 一彦、長坂 克彦

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	5 / 5	低温障害の生理的な原因が不明な中で、当初の目的である低温障害軽減のための対策が見えてきたと評価できる。
2 成果の有用性 (普及性、波及性)	5 / 5	低温障害の生理的な原因が不明な中での対応技術の開発の意義は高く、有用性は大きいと考える。
3 研究の発展性	4 / 5	低温障害の生理的な原因の根本的な解明や、分けつ促進とあわせて葉面散布や溶液処理等の予防策の検討が望まれる。
4 研究課題選定の妥当性	5 / 5	生産現場の問題解決要求に対応した課題であり、課題選定の妥当性は高いと考える。
総合評価	5 / 5	気候変動などにより初期生育の安定性が難しくなっている。このような中で、低温障害の生理的な原因の根本的な解明が残されているものの、低温障害軽減のための早急な対応策は必要であり、栽培管理技術として確立してほしい。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

早春期の凍霜害など低温障害軽減技術として、主に事前対策と事後対策に関する成果を示した。今後は本技術の周知と現場への定着に向けて、現地実証など普及部門との連携に務めていきたい。